



笠森観音はイワクラであった？ 会員 前田光久

笠森観音は、イワクラであったを確認すべく参詣した。坂東33観音の31番の十一面観音である。由来を、霊場解説にみると「伝教大師が、尾上の郷に来た時、生い茂った木々の間からみると、山上に宝形の岩があり、その上に十一面観音を感得した。大師が近づくと、楠木の古木のみがあったので、その木で尊像をつくり仮堂を建てて安置した。

現在の本堂は桃山時代の再建で、国指定重要文化財。他に例を見ない四方懸崖造りで、岩の上に高々と組み上げられている。

現在の、ご住職にお伺いした所、岩の形は、蓮の花の形をしていたとの事。関東大震災の折、一部崩落が見られたため残念ながら、コンクリートで周りを固める事になった。また上るための階段は、75段あり、蓮華廊と、岩の形に因み呼んでいるとのことであった。

岩の形、伝教大師の頃は、宝形。昭和に入ってから蓮の華。いずれも、有難い岩の形をしているとの事。

観音堂の下にあるため、蓮の華といわれても、確認は困難であった。

